

匠ファイル

窓ガラスクリーニングに全国大会がある。ガラス三枚を規定の道具でいかに速くきれいにできるかを競う。建物の外装クリーニング会社、エコル（東京・文京）の松崎美佐雄さん（44）はこの全国大会でただ一人、三度優勝した経験を持つ。持ち前の負けん気から「一番になりたい」と続けた努力が、顧客の信頼を得る技術獲得にもつながった。

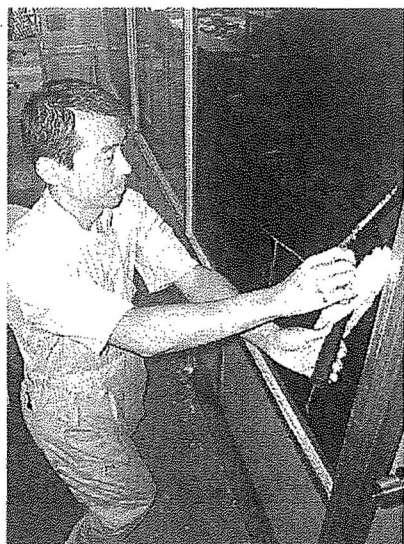
「大会で優勝した方にお願ひしたい」。エコルには松崎さんを指名する注文が相次いで舞い込む。

実際の仕上がりを見て「これだけやってくれるなら、外壁の掃除も頼む」と

窓クリーニング 日本一に3回

練習の虫、信頼も獲得

エコル 松崎美佐雄氏



空いた時間を見つけては練習に明け暮れる（東京都文京区）

他のサービスの受注につなげた。当初は「ただ給与を得ることもある。利用者のためにやっていた」が、心をつかむのは松崎さんが当時勤めていた会社に勧められ、全国ガラス外装クリーニング協会連合会が主催する大会に出場した。二十

つ以上の前のことだが「そこを自分で変わった」と振り返る。大会では洗剤を染み込ませたモップと、水切りの二つの道具を使って、ガラス

をきれいにする所要時間を競う。終了後に審査員がふき残しや水はねなどをチェックし、ペナルティーとして所要時間に加算。最終的に算出された合計時間で順位を決める。

初回は道具の効率よい使い方がわからず、地域予選さえ通過できない散々な結果に終わった。「悔しい」。絶対に上達しようと心に決め、練習を重ねるようになった。

一九八九年、エコルに勤務先を変えてからは一段と熱を入れた。始業前の早朝から練習。日中も空いた時間を

見つけては、右手と左手を別々に動かせるよう訓練した。外回りから戻ってきたあともすぐにモップと水切りを手に取り、業務を除いた毎日の練習時間は二時間半にもなった。そんな松崎さんの姿に会社も理解を示し、社内の一

まつぎき・みさお 1981年に高校を卒業し、アルバイトで窓ガラスのクリーニングを始めた。89年にエコル入社。「人ができないことをするのが、技術を持つということ」が持論。趣味は各を地で催される様々なテーマの講演を聞くこと。最近好きな言葉はある講演のテーマになっていた「感謝」。東京都出身。44歳。

角に練習用の窓枠を設置。努力が実を結んだのは九〇年。念願の全国優勝を飾った。その後九二、九六年にも優勝。九五年には米国フロリダ州の世界大会で準優勝に輝いた。さらに周囲の人の指導にも力を注ぐ。松崎さんの指導を受けて全国大会に優勝した社員は四人を数える。「会社の受賞歴を記した名刺は営業の際の話作り、信頼獲得につながっている」と社内でも評判だ。これまでの経験から「どうせやるからには一番を目指す」というのが信念。初めて出場した世界大会では、格好の研さんの場と考え、他国の選手の技をビデオに撮りためた。常に目標を設定すれば、自然に工夫も生まれるという。

（中川雅之）